

(参考様式 4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	秋田 3 期地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
秋田県	50008	15	平成 21～25 年度	平成 21～25 年度
活性化計画の区域				
米粉の郷あきた 県内 23 市町村（潟上市と大潟村を除く）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備 考
地域産物（米粉用米）の販売量の増加	955.76%	389.25%	40.7%	

(コメント)

平成 28 年度までは、小麦の代替品としての利用にとどまり、小麦粉との価格差に見合う価値を消費者に訴求できず、需要拡大につながらなかった。

平成 29 年度以降は、健康志向のグルテンフリー商品の需要喚起や、課題であった製粉コストの低減、さらにパンや製麺等の用途別基準の導入により、米粉の需要が拡大したことで、令和元年度には単年度の販売目標を達成したものの、改善計画期間全体で見ると、改善計画の目標達成には至らなかった。

(記入例) 交流人口の増加の場合

目標値 A = (目標値 / 現状値) × 100 - 100、実績値 B = (実績値 / 現状値) × 100 - 100

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
農林水産物処理加工施設	米粉製粉設備 一式			瑞穂食品株式会社
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
秋田県	平成 21 年度	平成 21 年度	平成 21 年度	
事業の効果				
日本製粉の販売網を活用し、提案営業を行うことで、大手 CVS スナック菓子、幼児向けスナック菓子、東京オリンピック公式ライセンス商品として土産菓子等に採用された。 また、スーパーや中堅パンメーカー、大手製パンメーカーが定番取引先として増加し、業務用・家庭用ミックス粉への使用等で、年々、米粉単体の販売が増加傾向にある。				

3 総合評価

(コメント)

改善計画期間全体の目標値を達成することはできなかったが、これまでの利用拡大等の取組により、最終年度の販売目標を上回ったことから、今後さらなる販売数量の増加が期待できる。

今後の方針としては、小麦粉と同様な用途基準の充実を図り、展示会、商談会への出展等による末端需要の拡大を図る。また、水田活用の直接支払交付金等、米粉用米関連施策の周知を進め、生産者との契約栽培の推進により安定的に生産量の増加を図ることや、米ゲルやアルファ化米等の加工技術による新商品の利用の拡大を目指す。

4 第三者の意見

(コメント)

近年、米粉については、グルテンフリー食品など新たなニーズによる消費拡大により、需要が伸びていることから、米粉の生産拡大に向けて、国助成制度を活用した複数年契約栽培の拡大など、生産地と連携した取組が重要と考えられる。

引き続き、生産者、集荷業者、米粉生産業者の三者で事業活性化計画目標が達成されるよう、指導すること。

秋田県農林水産部農業関係補助事業に係る第三者委員会 副委員長 佐藤 満
(秋田県中小企業団体中央会 理事)

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。

※達成率等算出根拠資料(参考様式4添付資料)を添付すること。

(参考様式4添付資料)目標達成状況報告書の達成率等算出根拠

秋田県

秋田3期地区活性化計画

目標数値

(単位:t)

区 分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
地域産物の販売量の増加	—	—	1,743	1,650	1,710	1,770	1,145	1,145	1,145	1,145	1,145	1,148
	事業実施前		計画期間				6,873	改善期間				6,873

実績数値

(単位:t)

区 分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
地域産物の販売量の増加	—	651	1,267	1,284	1,662	424	117	103	215	620	835	1,295
	事業実施前	651	計画期間			4,637	改善期間					3,185

【事後評価】

$$\textcircled{1} = \text{目標値A} = (\text{目標} / \text{現状}) \times 100 - 100(\%) = 955.76 \%$$

$$\textcircled{2} = \text{実績値B} = (\text{実績} / \text{現状}) \times 100 - 100(\%) = 612.26\%$$

$$\text{達成率} = \textcircled{2} \div \textcircled{1} = 64.1\%$$

【改善計画の事後評価】

$$\textcircled{1}' = \text{目標値A} = (\text{目標} / \text{現状}) \times 100 - 100(\%) = 955.76 \%$$

$$\textcircled{2}' = \text{実績値B} = (\text{実績} / \text{現状}) \times 100 - 100(\%) = 389.25\%$$

$$\text{達成率} = \textcircled{2}' \div \textcircled{1}' = 40.7\%$$

(参考様式 4 - 1)

秋田 3 期地区活性化計画 改善計画書

令和 2 年 9 月 2 日作成

都道府県名	計画主体名	地区名	計画期間	実施期間
秋田県	秋田県	秋田 3 期	平成 21～25 年度	平成 21～25 年度
事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体	
農林水産物処理加工施設 【米粉の郷あきた地区】	米粉製粉設備 一式		瑞穂食品株式会社	

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備 考
地域産物（米粉用米）の販売量の増加	% 955.76	% 389.25	40.7	

(記入例) 交流人口の増加の場合

目標値 A = (目標値 / 現状値) × 100 - 100、実績値 B = (実績値 / 現状値) × 100 - 100

2 目標が達成されなかった要因

- ・平成 28 年度までは、小麦の代替品として利用に止まり、小麦粉との価格差に見合う価値を消費者に訴求できず、需要拡大につながらなかった。
- ・平成 29 年度以降は、健康志向のグルテンフリー商品の需要喚起や、課題であった製粉コストの低減、さらにはパンや製麺等の用途別基準の導入により、米粉の需要が拡大し、令和元年度は単年度の販売目標を上回ったものの、結果、改善計画の目標達成には至らなかった。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度	令和 7 年度
事業の推進体制	日本製粉、瑞穂食品、全農秋田県本部、県
具体的取組方策	・展示会、商談会への出展等による末端需要の拡大 ・小麦粉と同様な用途別基準を充実し、加工業者の需要を喚起 ・水田活用の直接支払交付金等、米粉用米関連施策による生産者との契約栽培の推進による生産量の安定的増加 ・米ゲルやアルファ化米等の加工技術による新たな商品による利用の拡大

4 改善計画に対する第三者の意見

(コメント)
国や実需者との連携により需要拡大対策を徹底し、事業活性化計画の目標が達成されるよう、引き続き、指導すること

秋田県農林水産部農業関係補助事業に係る第三者委員会
副委員長 佐藤 満 (秋田県中小企業団体中央会 理事)

※達成率等算出根拠資料 (参考様式 4 - 1 添付資料) を添付すること。

(参考様式4-1添付資料)改善計画書の達成率等算出根拠

秋田県

秋田3期地区活性化計画

目標数値

(単位:t)

区 分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
地域産物の販売量の増加	—	—	1,743	1,650	1,710	1,770	1,145	1,145	1,145	1,145	1,145	1,148	1,145	1,145	1,145	1,145	1,145	1,148	
事業実施前			計画期間				6,873	改善期間1回目					6,873	改善期間2回目					6,873

実績数値

(単位:t)

実績数値																		(単位:万円)	
区 分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
地域産物の販売量の増加	—	651	1,267	1,284	1,662	424	117	103	215	620	835	1,295							
	事業実施前		651	計画期間			4,637	改善期間1回目					3,185	改善期間2回目					

【事後評価】

① = 目標値A = (目標／現状) × 100-100(%) = 955.76 %

② = 実績値B = (実績(H22～H25)／現状) × 100-100(%) = 612.26%

達成率 = ②÷①
64.1%

【改善計画1回目の事後評価】

①' = 目標値A = (目標／現状) × 100-100(%) = 955.76 %

②' = 実績値B = (実績(H26～R1)／現状) × 100-100(%) = 389.25%

達成率 = ②'÷①'
40.7%

【改善計画2回目の事後評価】

①'' = 目標値A = (目標／現状) × 100-100(%) = 955.76 %

②'' = 実績値B = (実績(R2～R7)／現状) × 100-100(%) = 0

達成率 = ②''÷①''